

フランス語・イタリア語との比較におけるコルシカ語動詞複合時制 における助動詞 *esse/avè* について

長谷川 秀樹

Assiliariu esse/avè in l'aspettu compiutu di verbi di a lingua corsa in cumparazione di e lingue italiana è francese

Hideki HASEGAWA

はじめに

本稿は、コルシカ語の動詞の複合時制（＝完了相）において助動詞がどのように使い分けられるのか、フランス語とイタリア語との比較を交えて考察するものである。コルシカ語のこの研究事例は管見のところ断片的であり、フランス語との比較はあるものの、研究自体がフランスにおいてのみであるため、コルシカ語に近いイタリア語との比較はない。

本題にある複合時制とは、フランス語やイタリア語などのロマンス語では顕著な時制の表現形態で、具体的には助動詞と過去分詞との組み合わせである。英語にも助動詞 *have* と過去分詞の組み合わせである「完了形」（現在完了、過去完了、未来完了）が存在するが、仏伊語は直説法において複合過去（伊文法では「近過去」）、大過去、前過去（同「先立過去」）、前未来（同「先立未来」）、条件法過去、接続法過去および接続法大過去など多数に及ぶ。コルシカ語の複合時制の種類についてはロマニによればフランス語の分類を援用している（ROMANI 2006）。

複合時制における助動詞は、コルシカ語・フランス語・イタリア語ともに *avè/avoir/avere*、*esse/être/essere* の2種である。前者はラテン語の *habere* を起源とするもので、英語の *have* にあたる。後者は同じくラテン語の *esse* を起源とするもので、英語の *be* にあたる。英語とは異なり、コルシカ語、フランス語、イタリア語はこの2語のみを助動詞としている。

しかしこの2つの助動詞はどちらを使ってもよいという訳ではなく、過去分詞で使われる動詞の性質によって使い分けなければならない。大方の他動詞については助動詞が *avoir/avere* となるが、一部の自動詞、例えば「出発する（仏 *partir*/伊 *partire*）」、「戻る（仏 *retourner*/伊 *ritornare*）」などは *être/essere* となり、フランス語やイタリア語の初学者や教育者を悩ませる点である。本稿はこの区別についてコルシカ語を中心に仏伊語との比較を交えて、共通点と相違点を明らかにするものである。

第1章 3言語間の共通項と自動詞の複合時制における助動詞の差異について

いずれの助動詞を用いるのかについては、これに続く過去分詞の動詞の性質により区別される点で、コルシカ語は仏伊語に共通であるが、まずは時制を超えた助動詞と過去分詞による表現の大枠の共通点を説明する。

- i) 助動詞は原則として *avè/avoir/avere* を用いる。
- ii) ただし助動詞＋過去分詞が「受動態」である場合、助動詞は *esse/être/essere* である。

- iii) 「代名動詞」¹の複合時制は常に助動詞が *esse/être/essere* である。
- iv) 「移動」を意味する動詞²が自動詞として用いられている場合は、*être/essere* を用いる。
- v) iv) の場合でも他動詞として用いられる場合³は、*avè/avoir/avere* になる。

コルシカ語については、ガッジョーニの説明が最も合理的であり、それは他動詞の場合は *avè* (仏伊語の *avoir/avere* に相当)、自動詞の場合はそれが人間による行為・動作 (意識する、しないに関わらず) によるである場合は *avè*、そうでない場合は *esse* (仏伊語の *être/essere* に相当する)、という図式である (GAGGIONI, 2012 :69)。仏伊語が共通である上述の i) ~ iv) のうち、ii) と iv) はコルシカ語にも共通すると言える。

ii) は、仏伊語がともに助動詞を *être/essere* とする「行く (*aller/andare*)」、「来る (*venir/venire*)」、「出発する (*partir/partire*)」、「到着する (*arriver/arrivere*)」、「生まれる (*naître/nascere*)」、「死ぬ (*mourir/morire*)」、「とどまる (*rester, demeurer/restare, stare*)」、「戻る (*rentrer, retourner, revenir/rientrare, ritornare, rivenire*)」、「登る (*monter/monatre*)」、「降りる (*descendre/scendere*)」、「通り過ぎる (*passer/passare*)」などの動詞については、コルシカ語のこれらに相当する動詞も、助動詞は *esse* となる。

第1節 コルシカ語・フランス語・イタリア語ともに *avè, avoir, avere* となるケース

「歩く」*marchjà* と *caminà* や「旅 (行) する」*viaghjà* がこれに該当する。「歩く」を意味するコルシカ語には上記2語が一般に用いられる。しかしフランス語は前者と同源の *marcher*⁴、イタリア語は後者と同源の *camminare* の方を一般的に用いるので、単純な比較は困難である。フランス語の *marcher* の過去分詞 *marché* は複合時制においては常に *avoir* を用いる。一方、イタリア語の *camminare* はかつて *essere* が用いられていたが、現在では *avere* を用いる⁵。

コルシカ語の *marchjà, caminà* の2語は「歩く」であるが、若干その意味に違いがある。前者は歩行という「運動」に焦点が置かれている一方、後者は語源が俗ラテン語の *camminus* 「道」であることから、「歩く」という運動よりも「(物事が) うまくいく、進む」という

¹ 座る (*assetassi*, 仏 *s'asseoir*, 伊 *assetarsi*, 直訳すると「自分を座らせる」)、名前が〜である (*chjamassi*, 仏 *s'appeler*, 伊 *chiamarsi*, 直訳すると「自分を〜と呼ぶ」)、洗顔する (*lavessi*, 仏 *se laver*, 伊 *lavarsi*) などのように、自らの行為を自動詞動詞ではなく「自らを〜の行為をオボす」と自らを目的語とし他動詞で表現する形態。不定法で表す場合、コルシカ語とイタリア語末尾の *-si*、フランス語は冒頭の *se* が「自らを」を意味する再帰代名詞となり、この代名詞を伴う動詞を「代名動詞」と呼ぶ。仏伊語のほか、スペイン語やポルトガル語等のロマンス諸語にきわめて顕著にみられる。

² 行く (*andà/aller/andare*)、来る (*venir/venire*)、出発する (*parte/partir/partire*)、到着する (*arrivà/arriver/arrivere*)、生まれる (*nasci/naître/nascere*)、死ぬ (*morre/mourir/morire*)、とどまる (*restà,stà/rester, demeurer/restare, stare*)、戻る (*rentrer, retourner, revenir/ritornare*)、登る (*monter/monatre*) などの動詞。ただし、旅する (*voyager/viaggiare*)、航行する (*naviguer/navigare*)、訪れる (*visiter/visitare*) などは移動を意味しても助動詞は *avoir/avere* となる。

³ 例えば、フランス語の動詞 *sortir* について自動詞 (「出る」) ならば助動詞は *être*、他動詞 (「出す」) ならば *avoir* となる。同様にイタリア語の動詞 *sortire* も自動詞ならば助動詞は *essere*、他動詞 (「備える」) ならば *avere* となる。

⁴ *marchjà* の語源はフランス語の *marcher* 同様、ゲルマン語、フランク語の *markon*

⁵ 小学館『伊和中辞典』第2版 1999年 p.245

「状態」に焦点が置かれている⁶。 *marchjà* が人間の運動を意味し、かつラテン語やイタリア語の影響がないことから助動詞は *avè* となる（フランス語に同じ）（GAGGIONI,2012 :71）。一方、*caminà* の過去分詞 *caminatu* については、下記の通りである。

È u mondu sanu, *aghju caminatu* d'un esili' à un altru⁷.

「皆が知っているのは、（私が）他（の所）への逃避という道を進んだということだ。」

Ai caminatu in u turchinu intensu⁸.

「（君は）この深い青色をした（海を）歩いた。」

よって「歩く」については、フランス語、イタリア語、コルシカ語のいずれも助動詞は *avoir/avere/avè* となる。このようなケースとなる移動を意味する動詞は「旅（行）する」（*viaghjà/voyager/viaggiare*）、「移（転す）る、引っ越す」（*traslucà* および *sluggià/déménager, déloger/traslocare, sloggiare*/）

第2節 フランス語 *avoir*, コルシカ語・イタリア語が *esse/essere* となるケース

「逃げる（*scappà, fughje*）」「去る（*filà*）」「流れる、（物事が）流れるように進む、（時が）過ぎ去る（*scorre*）」、爆発・破裂する・突然〜し出す（*schjattà, sbuttà*）などがこれに該当する。

Quellu tempu avà *ghjè⁹ scorsu* !¹⁰ 「今やこんなにも（長い）時がすぎ去ってしまった」

フランス語の「流れる」*couler* の過去分詞 *coulé* は助動詞が常に *avoir* となる。上記例文のフランス語は *Que de temps a coulé!*、イタリア語は *Quale tempo e scorso adesso!* である。

Hè scappatu à una machja brusgiata¹¹. 「（彼は）焼けた灌木林の中に逃げ込んだ」

フランス語 *Il a fui* dans le maquis brûlé. イタリア語 *E' scappato* alla macchia bruciata.

U terzu ghjornu, omu disse à Làbanu chì Ghjacobbu *era fughjitu*

「三日目に、ヤコブが逃げたことがラバンに知らされた（聖書の創世記 31 章 22 節）」

フランス語 *Le troisième jour, on annonça à Laban que Jacob s'était enfui (=avait fui).*

⁶ フランス語はこの場合も *marcher* を用いる。 *cheminer* という動詞もあるが一般には *Ça (ne) marche pas, cette machine à laver.* (動かないよ、この洗濯機) といった表現のように、 *marcher* を多用している。

⁷ Pedru-Felice Cuneo-Orlanducci, « tristezza », *Anima cappiata-bloggu litterariu corsu*, u 21 di u lugliu 2014. (http://www.anima-cappiata.net/Tristezza_a470.html)

⁸ Ruclinonu Solechjari, « Lamentu dedicatu à stu pesciu cappellu ritruvatu mortu, parechji anni fà, nant' à a rena di u Capicorsu », *Puesie di Rucli, Isula -foru in lingua corsa* (website), le 6 mars 2012, (<http://isula.forumactif.com/t22p20-puesie-di-rucli>)

⁹ *ghjè* は *esse* の 3 人称単数現在形でコルシカ島北部での形態。中南部は *sò* (GAGGIONI,2012 :391)。

¹⁰ Ghjacumu Simompoli, « Ricordu », *INFCOR: Banca di dati di a lingua corsa, ADECEC website* <http://infor.adecec.net/recherche.php?recherche=scorsu&langue=0&type=1&x=68&y=20>

¹¹ « A lingua nostra /2 Eléments de langue corse », 3 avril 2011, *L'invitu Website*, <http://www.l-invitu.net/lingua2.htm>

イタリア語 *Al terzo giorno fu riferito a Làbano che Giacobbe era fuggito.*

なお、「滑る」「滑り落ちる」(*sculiscià, sguillà, piombà*¹²)も同じケースとなる。

第3節 フランス語が常に *avoir*、コルシカ語が常に *esse*、イタリア語は意味に応じて *avere/essere* を使い分けるケース

動詞「走る (*corre*)」がこれに該当する。フランス語の「走る」*courir* の過去分詞 *couru* に伴う助動詞は、*avoir* に固定されている。一方、イタリア語 *correre* (過去分詞 *corso*) は「走る」という「運動」を意味する場合は *avere* であるのに対し、「～から走る」「～へ駆けつける」などのように場所を示した語句を伴い「移動」を意味する場合は *essere* となる¹³。これに対してコルシカ語の *corre* の過去分詞 *corsu* は常に *esse* となる (GAGGIONI, 2012 : 71)。

Duve *si corsu* ? 「どこへ行ったの？」(仏語 *Où as-tu couru*, イタリア語 *Dove hai corso* ?)

C'hè corsu u focu. 「火事が起きた、火が広がった」

(仏語 *le feu a courru, le feu a éclaté.* イタリア語 *E arso il fuoco.*)

Hè corsa una voce. 「ある声(音、知らせ)が広がった」

(仏語 *Une nouvelle a couru*, イタリア語 *La notizia e corsa*)

跳ぶ・破裂する (*saltà*)

第4節 フランス語とコルシカ語が *avoir/avè* となり、イタリア語が意味に応じて *avere/essere* と使い分けるケース

「飛ぶ(*vulà*)」がこれに該当する。フランス語の「飛ぶ(*voler*)」の過去分詞 *volé* は、助動詞は常に *avoir* を用いる。一方イタリア語の *volare* は、③の「走る(*correre*)」同様、単純に「運動」を意味する場合には過去分詞 *volato* の助動詞は *avere* となるが、比喩やメタファーとして「飛ぶ」を用いる場合や主語が人間でない場合は *essere* となる。例えば「私は昨日東京から大阪まで(飛行機で)飛んだ」ならば *Ho volato da Tokyo a Osaka ieri.* となるが、「私はあなたのところへ飛んで行った」なら *Sono volato a lei.*、「私の小鳥が飛んで行った」なら *Il mio piccolo uccello è volato.* となる。

コルシカ語の *vulà* は、比喩やメタファーとして「飛ぶ」を使う場合でも、助動詞は *avè* である。

*U'n avianu mai vulatu cusì in furia*¹⁴.

「(私たちは)こんなにあわてて飛んで行ったことは今までにない。」

¹² コルシカ島南部では *piumbà*。

¹³ 小学館『伊和中辞典』第2版 1999年 p.411

¹⁴ Foru Corse website <http://www.forucorsu.com/t778-DATUTTI-I-NOSTRI-SCRITTI.htm?start=15>

S'acellu eiu fussi statu, versu ella *averei vulatu*¹⁵.

「もし私が鳥だったら、彼女のところに飛んで行ってしまおうだろうに」

E macagne *anu vulatu cum'è i pani di San Roccu* !!¹⁶

「不吉が聖ロクスのパンのようにふっ飛んで行ったんだ！」

上記の例文はイタリア語の場合、「飛ぶ」の過去分詞 *volato* の助動詞はすべて *essere* となる。*volare* はイタリア語の場合、「人間が（飛行機等の飛翔物に乗って）飛ぶ」という意味のみ *avere* を助動詞とし、他のケースは *essere* となる。これに対してコルシカ語では飛ぶ *vulà* は全て助動詞が *avè* である。これはフランス語の影響を受けたものと考察される。同様のケースに該当する動詞には *avanzà*（行進・前進する、物事がうまく進む、昇進する等の意味。フランス語 *avancer*、イタリア語 *avanzare*）がある。フランス語・コルシカ語の助動詞は常に *avoir, avè* であるが、イタリア語は「人が前進・行進する」場合においてのみ助動詞は *avere* であり、他のケースは *essere* である。

（コルシカ語）200 anni dopu, *averemu appena avanzatu* ?¹⁷

（イタリア語）200 anni dopo, *saremo appena avanzati*?

「200年後我々は少しは進歩しているのだろうか?」。

第2章 状態動詞の過去分詞における助動詞について

「移動」ではなく「状態」を表す動詞の過去分詞に付随する助動詞についても、コルシカ語、フランス語、イタリア語では違いがみられる。フランス語は常に *avoir* が用いられる。一方、イタリア語やコルシカ語では「人間の動作」にあたらぬ状態動詞の複合時制における過去分詞に先行する助動詞は原則 *esse/essere* を用いるが、差異がみられる。

第1節 天候を表す非人称主語動詞の場合

「雨が降る(*piove*)」、「雪が降る(*nevà/nivà*)¹⁸」など英語であれば *it rains, it snows*、フランス語では *il pleut, il neige* と非人称主語で表される、天候表現における複合時制における助動詞については、イタリア語 (*piovere, nevicare*) では *avere, essere* のいずれも可としているが、コルシカ語では *esse* のみの使用となる。

¹⁵ Francesco, « Luna veranile », Un populu senza cultura hè un populu senza avvène, Forum di cuntrastu in lingua corsa. Locu di spartera, d'amicizia è di libertà. 12 mars 2012.(<http://appuntamento-corsu.forums-actifs.net/t405p60-altra-pruposta/>)

¹⁶ Marcu Maria, « Piaaaaaaace », Camperemu Forza Bastia website, 2 agostu 2003(<http://www.camperemu.com/viewtopic.php?f=1&t=22586&start=0>). 聖ロクスはコルシカ語では *San Roccu*（イタリア語では *San Rocco*、フランス語では *Saint Roch*）と呼ばれる聖人。ペスト病に対する守護聖人で彼の肖像画や絵画ではパンを加えた犬とともに描かれていることから、このような表現となったのであろう。

¹⁷ « I Corsi visti da i Corsi », A piazzetta.com, Infurmazione corse, azizume è scherzu, Website (http://www.apiazzetta.com/I-Corsi-visti-da-i-Corsi_a1117.html),

¹⁸ コルシカ島北中部では *nevà*、南部では *nivà* となる。

A simana passata *hè piossu è fattu* u ventu. 先週は雨が降り風が吹いた。

フランス語では *La semaine dernière, il a plu et fait du vent.* となり、イタリア語では *La settimana passata è (ha) piovato e fatto il vento.* となる。上述の例のように、通常他動詞で示される *fà* (フランス語 *faire*、イタリア語 *fare*、英語 *make* で「作る」「成す」「～させる」の意) が、天候を表す熟語を表す自動詞となる場合 (上記例文の「風が吹いた」の個所) も、フランス語は *avoir* のみ、コルシカ語は *esse* のみ、イタリア語は双方使用可能となる。

Hè fattu u caldu sta notte (CASTA, 2003 :57). 今夜は暑かった。

(フランス語は *Il a fait chaud cette nuit.* イタリア語は *E'(ha) fatto caldo questa notte.* ただし複合時制よりも半過去を使うことが多い。フランス語 *Il faisait chaud cette nuit.* イタリア語 *Faceva caldo questa notte.*)

第2節 病状・体調を表す自動詞の場合

回復する・治癒する・快方に向かう (*arrisanà*)、弱くなる・衰える (*accalacià, accalià*)、老ける (*invechjà*) などは、コルシカ語、イタリア語双方助動詞が *esse/essere* となる。

*Hè arrisanatu dopu una longa malatia*¹⁹. 「彼は長い病気から回復した」

フランス語では *Il a guéri d'une maladie longue.*

イタリア語では *E' guarito da una lunga malattia.*

ただし、汗をかく (*sudà*)、流血する (*sanguinà*)、咳をする (*tossi*) などは、コルシカ語もイタリア語も *avè/avere* を助動詞に用いる。一方、出産する (*parturì*) はコルシカ語が *esse*、イタリア語は *avere* となる。

第3節 拡大・縮小、出現・消失など可視的变化を伴う自動詞の場合

可視的な変化を表す自動詞、例えば「大きくなる/小さくなる」「伸びる/縮む」「現れる/消失する」等) について、複合時制における助動詞は、フランス語では常に *avoir* となるが、れに対してコルシカ語やイタリア語については、*esse/essere* を用いることが多い。しかし、必ずしも同一ではない。幾つかのケースに分けてその相違について考察する。

①コルシカ語・イタリア語ともに *esse/essere* のケース

¹⁹ ADECEC, INFCOR, Banca di dati di a lingua corsa, website <http://infcor.adecec.net/recherche.php?recherche=arrisana & langue=0&type=1&x=89&y=25>

現れる (*apparì, emerge*)・消える (*sparì*)²⁰

E stelle *sò sparse in celu*²¹. 空の星々が消えてしまった。

(フランス語 *Les étoiles ont disparu dans le ciel.* イタリア語 *Le stelle sono sparse in cielo.*)

In i scavi archiologichi effittuati d'aprili 2007 *hè emersu (...)*l'abitatu punicu²².

「2007年4月に行われた考古学発掘調査で、カルタゴ人の集落が出土した。」

フランス語では *Dans l'affouillement archéologique effectué en avril 2007, l'habitat punique a émergé.* イタリア語では、*Negli scavi archeologici effettuati in aprile 2007 è emerso l'abitato punico.* となる。

大きくなる (*ingrandà*)・小さくなる (*acchjuculi*) (GAGGIONI,2012 :71)

Hè ingrandata a nostra figliola senza cunnosce u so babbà(FRASSATI,1998 :117).

「我々の娘は彼女の父を知ることなく大きくなった。」

フランス語は *Notre fille a agrandi sans connaître son père.* イタリア語は *La nostra figliola è ingrandata senza conoscere suo padre.*

太る・太くなる (*ingrussà, ingrassà*)、細る・細くなる・痩せる (*assenichì, smagri*)、伸びる (*crece*)・縮む (*ristritti*)・短くなる (*accurtà*)²³、美しくなる・綺麗になる (*abbelli*)、醜くなる (*inguffà*)、増加する(*crece*)・減少する(*diminui*)などもこれに該当する。

②コルシカ語は *esse*、イタリア語は *avere* のケース

i) 「変化」を表す状態動詞—拡大・縮小、老化、回復・悪化、出現・消失など

「現れる」「生ずる」「(事件・事故等が)起きる」などの意味を持つ動詞のうち、*affaccà, figurà* はコルシカ語のみが *esse* となる。イタリア語の *affacciare* が「現れる」という自動詞を表す場合は通常、代名動詞となる(*affacciarsi*)

Ci *hè figuratu un scena*²⁴. 「ある一つの場面がそこに現れた。」

(フランス語は *Un scène a figuré là.* イタリア語 *Ci ha figurato una scena.*)

Ecculi à babbu è à mamma, sò affaccati tremindui à tempu(FUSINA,1986 :23).

「ほら、パパとママがいるよ。二人ともじきに現れた。」

フランス語は *Les voilà Papa et Maman, tous les deux sont apparus un instant.*

²⁰ フランス語は「現れる (*apparaître*)」の複合時制における助動詞は *être* となるが、「消える (*disparaître*)」は *avoir* と変則的になる。

²¹ INFCOR, Banca di i dati di a lingua corsa, ADECEC website, <http://infcor.adecec.net/recherche.php?recherche=sparus&langue=0&type=1&x=52&y=11>

²² «Olbia», Wikipedia version corse, (<http://co.wikipedia.org/wiki/Olbia>)

²³ 「長くなる (*allungà*)」はフランス語 (*s'allonger*) もイタリア語 (*allungarsi*) も代名動詞となるため、複合時制における助動詞はすべて *esse/essere/être* となり、①にも②にも該当しない。コルシカ語は代名動詞にはならない。

²⁴ Collectif, « Golu », *Per isse pieve di u Cismonte*, CDRP-Corse, 2011, p.11.

イタリア語は *Eccole Papa e Mamma, tutti i due si sono afficciati a tempo.*

第4節 存在・欠如・無・量の多寡、必要などを表す自動詞 (CASTA,2003 :53)

存在する (*esiste*)、十分である (*bastà*)、必要である (*vulecci*)、欠如している・ない (*mancà*)、お金がかかる (*custà*) などの動詞は、助動詞が *esse* となる。これらは、イタリア語も助動詞が *essere* となる。

L'hè bastata una volta(CASTA,2003 :53). 「彼には一回あれば十分だった。」

フランス語では *Une fois lui a suffi.* イタリア語では *Gli è bastata una volta.*

Hè custatu ochju di beccu(CASTA,2003 :53). 「それはべらぼうに高かった。」

フランス語では *Ça a coûté les yeux de la tête.*

イタリア語では *E' constato gli occhi della testa.*

第5節 その他の状態動詞

続く (*durà*²⁵, *continuà*, *perdurà*)、変わる (*cambià*)、進歩・進展する (*prugridi*)

これらの自動詞は、イタリア語では意味において *essere/avere* を使い分ける、あるいは双方可であるのに対して、コルシカ語は *esse* のみとなる。

*A crisa chì hà toccu a Corsica sti pochi ghjorni ùn era solu un cunflittu sindacale chì hè duratu troppu*²⁶.

「この数日間でコルシカを襲った危機は、相当長く続いた組合闘争だけではなかった。」

フランス語では *La crise qui a touché la Corse pendant ces quelques jours n'était pas seulement un conflit syndical qui a trop duré.*

イタリア語では *La crisi chi ha toccato la Corsica mentre questo qualche giorno non solo era un conflitto sindacale chi è(ha) durato troppo.*

第3章 その他のケースでの複合時制における助動詞について

第1節 *esse/être/essere, avè/avoir/avere* 自体の複合時制における助動詞の使い分けについて

イタリア語では *essere* それ自体 (「ある」「いる」の意) の複合時制における助動詞は *essere* となり、*avere* それ自体 (「もつ」「有する」の意) の複合時制における助動詞は *avere* とな

²⁵ ただし、*durà* の直後に、継続した時間を示す表現が続く場合は、*avè* が助動詞となる。U festival *ha duratu 5 ghjorni quest'annu*. 「今年はこのフェスティバルは5日間続いた。」(« U Golfu di San Fiorenzu cun un ritmu latinu » ou ... Darkplanneur en Corse », Darkplanneur.com, 7 juillet 2012, <http://www.darkplanneur.com/art/u-golfu-di-san-fiorenzu-cun-un-ritmu-latinu-ou-darkplanneur-en-corse>)

²⁶ *Corse-Matin*, 13 juillet 2014, « A dilla franca, « Isula di rena » ».

り、フランス語では *avoir*、*être* とともに様の場合では *avoir* を助動詞とする。例えば「私はパリに行ったことがある/私はパリに行ってきた」という複合過去（近過去）表現は（英語の *I've been in Paris.* に相当）、フランス語では *J'ai été à Paris*²⁷ となるのに対して、イタリア語では *Sono stato a Parigi*²⁸ となる。

コルシカ語はイタリア語同様、*esse* の複合時制においては助動詞が *esse* となり、*avè* の複合時制においては助動詞が *avè* となる。

*Simu stati tanti*²⁹. (我々は) 多数いた。伊語 *Siamo stati in tanti*. 仏語 *Nous avons beaucoup été*.
*Aghju avutu u catarru*³⁰. (私は) 風邪をひいた。仏語 *J'ai eu rhume*.

(イタリア語では *Ho preso il raffreddore* となり助動詞は *avere* だが、「風邪をひく」という動詞が「持つ」*avere* ではなく「受ける・とる」を意味する *prendere* となっている。)

上記より受動態の複合時制についても、フランス語のみ *avoir*、イタリア語とコルシカ語は *essere/esse* が助動詞となる。

*Tuttu hè statu scrittu in giru à a lingua corsa*³¹. あたりは全てがコルシカ語で書かれた。

「全てがコルシカ語で書かれる」という現在の場合、すなわち受動態の場合は *Tuttu hè scrittu in giru à a lingua corsa* となるが、そのさらに過去（複合過去）は直説法現在形（三人称単数）の *hè* は過去分詞 *statu* となり、さらにその前に助動詞 *hè* が置かれる。これを仏伊語と並列させると以下のようなになる。

仏語 *Tout a été écrit partout en langue corse*. 伊語 *Tutto è stato scritto in giro a la lingua corsa*

第2節 「～がある」「～がない」の複合時制表現における助動詞について

「～がある」「～がない（「～がある」の否定語）」の表現はコルシカ語、フランス語、イタリア語で異なるため、助動詞の使い分けに関する直接比較は困難であるが、重要表現なので説明に加える。コルシカ語の「～がある」は *Ci hè*（もしくは *C'hè*）、「～がない」は *Nun ci hè*（もしくは *Nun c'hè*）であり、イタリア語のそれぞれ *C'è*, *Non c'è* に近く、すなわち *esse/essere* を動詞としている。一方でフランス語は「～がある」は *Il y a*、「～がない」は *Il n'y a pas* となり動詞が *avoir* である。よって、複合時制で使われる助動詞も異なり、コルシカ語、イタリア語、フランス語は次頁の表の通りとなる。

²⁷ *Je suis été à Paris* にはなりえない。*J'ai* の *ai* は *avoir* の直説法現在の一人称単数活用、*suis* は *être* の直説法現在の一人称単数活用、*été* は *être* の過去分詞である。

²⁸ *Ho stato a Parigi* にはなりえない。*Ho* は *avere* の直説法現在の一人称単数活用、*Sono* は *essere* の直説法現在の一人称単数活用、*stato* は *essere* の過去分詞である。

²⁹ *Corse-Matin*, «A dilla franca-Femu u corsu», 25 mai 2014,

³⁰ U Situ di A lingua corsa accolta (<http://gbatti-alinguacorsa.pagesperso-orange.fr/conjugaison/rqs-ave.htm>)

³¹ *Corse-Matin*, «A dilla franca-Femu u corsu», 25 mai 2014,

	コルシカ語	イタリア語	フランス語
～があった	<i>C'hè statu</i>	<i>C'è stato</i>	<i>Il y a eu</i>
～がなかった	<i>Nun c'hè statu</i>	<i>Non c'è stato</i>	<i>Il n'y a pas eu</i>

第3節 準助動詞の複合時制における助動詞の使い分け

準助動詞とは、英語で言えば *can, will, shall, may, must, have to* など直後に不定法（英語では「原型」）動詞（「本動詞」）を伴う動詞の意味を補助する役割を有する動詞で、英文法では補助動詞とも呼ばれる³²。準助動詞はコルシカ語、フランス語、イタリア語などのロマンス諸語にも見られ、上記3語には主に、「～できる・～してよい(*puè/pouvoir/potere*)」、「～できる(*sapè/savoir/sapere*)」、「～したい(*vulè/vouloir/volere*)」、「～なければならない・～にちがいない・～であるはず(*duvè/devoir/dovere*)」などがある。

準助動詞の複合時制における助動詞は、フランス語の場合は本動詞が何であれ、常に *avoir* となる。例えば「彼はパリに行ってしまった」という直説法複合過去時制では、「行く」が移動を意味する自動詞であることから、助動詞は *être* であり、*Il est allé à Paris.* となる。しかし、「彼はパリに行きたかった」という準助動詞を伴う場合は、*Il a voulu aller à Paris.* となり、助動詞は *avoir* である。

一方、イタリア語の場合は、本動詞が複合時制において助動詞が *essere* となる場合は、準助動詞を伴う場合でも助動詞は *essere* となる。例えば、「私（女性）は正午にパリに到着しなかった」は *Non sono arrivata in Parigi a mezzogiorno.* であり、「私（女性）は正午にパリに到着することができなかった」は *Non sono potuta arrivare in Parigi a mezzogiorno.* となる。

コルシカ語については、イタリア語同様のケースで *avè, esse* を使い分ける (CASTA,2003 :57, GAGGIONI,2012 :336)。

① *puè* (フランス語 *pouvoir*、イタリア語 *potere* との比較)

Un *hè pussuta cullà*. 「私（女性）は登ることができなかった」 (CASTA,2003 :99)。
(仏語 *Je n'ai pas pu monter.* イタリア語 *Non sono potuta salire.*)

*Avemu pussutu capì appena megliu a manera di campà à l'epica romana*³³.

「(我々は) ローマ時代における生活方法を少し良く理解することができた」

(仏語 *Nous avons pu comprendre un peu mieux la manière de vivre dans l'époque romaine.*

イタリア語 *Abbiamo potuto capire alla meglio la maniera di vivere in epoca romana.*)

② *vulè* (フランス語 *vouloir*、イタリア語 *volere* の比較)

S'o'l'aviu vugliutu tene(...).

³² これに対して英語の助動詞は *do(does)* と *be* 動詞 (受動態・過去形) である。

³³ Daniel Gonet, « u situ anticu d'Aleria », Campascola Website, 1 octobre 2008 (<http://www.wmaker.net/ciden/campanari/>)

「もし私がそれを持っていたかったなら、・・・」(GAGGIONI, 2012 :337)
 (仏語 *Si j'avais voulu le garder(...)*. イタリア語 *se l'avessi voluto tenere(...)*.)

③ *sapè* (フランス語 *savoir*、イタリア語 *sapere* の比較)

*Durante i so quattru anni in Corsica, hà sappiutu usservà, hà circatu di capisce stu paese(...)*³⁴.
 「彼は4年間のコルシカ滞在中、この国を観察することができ、理解しようとした・・・。」
 (仏語 *Pendant ses quatre ans en Corse, il a su observer et cherché de comprendre ce pays(...)*.
 伊語 *Durante i suoi quattro anni in Corsica, ha saputo osservare, ha cercato di capire questo paese (...)*.)

なお、*sapè* は仏語の *savoir* やイタリア語の *sapere* も含めて、自らの能力・技量によりある行為ができることを意味する語彙であり、外的要因や許可等により「～できる」という *pudè(pouvoir, potere)* とは異なる。このことから *sapè* は意味上複合時制において助動詞が *esse* となる状況はほとんどないと考えられる。

④ *duvè* (フランス語 *devoir*、イタリア語 *dovere*)

これは *pudè, vulè* とはケースが異なる。イタリア語 *dovere* も複合時制における助動詞は、過去時制において助動詞を *essere* とすべき *andare* のような本動詞を伴う場合でも、*avere, essere* 双方使用可としている³⁵。

コルシカ語の *duvè* の複合時制では、準助動詞として用いる場合は、フランス語同様常に *avè* となる。

I Corsi *anu duvutu spatriassi* divintendusi immigranti in Francia(...)³⁶.

コルシカ人はかつてフランス（本土）への移民となるために祖国を出て行かなくてはならなかった。

本動詞 *spatriassi*（祖国を出てゆく）は代名動詞であるため、この動詞は複合時制では助動詞が *esse* となる（「私は祖国を出て行った」は *S'hè spatriatu*）。したがって、「私は祖国を出て行きたかった」や「私は祖国を出ていけなかった」など *pudè, vulè* を伴う複合時制では助動詞は *esse* となる（*Hè vugliutu spatriassi. Nùn hè pussutu spatriassi.*）。しかし *duvè* の場合は *esse* ではなく *avè* となる点で、イタリア語とは異なり、フランス語に準ずる。

フランス語 *Les Corses ont dû s'expatrier* devenant immigrés en France.

³⁴ A piazzetta, infurmazione corse, azizume è scherzu, « Frédéric Hantz, un "gaulois" in u Ribombu », 8 ghjugnu 2014, (http://www.apiazetta.com/Frederic-Hantz-un-gaulois-in-u-Ribombu_a1869.html)

³⁵ 『伊和中辞典』（第2版）小学館 1998年 p.521。複合時制における助動詞が *avere* である本動詞を伴う *devere* が複合時制の場合は常に *avere* を助動詞とする。

³⁶ *Informateur Corse nouvelle, Settimanale corsu*, No.6500, 13 janvier 2014, p.6.

イタリア語 I Corsi *sono dovuti* (もしくは *hanno dovutu*) spatriarsi diventando immigranti in Francia.

また、*duvè* を準助動詞ではなく単独の動詞として用いる場合（「借りがある」、「義務がある」、「～のおかげだ」、「～に負う・由来する」の意）の複合時制では、フランス語とイタリア語は常に *avoir, avere* となるのに対して³⁷、コルシカ語では *esse* となる。

Pussidimu dui testi annant' à u stessu navifraghju di navigatori veniziani à u largu di a Nurvegia in 1432. U prima *hè duvutu* à u capitanu di bordu, Pietro Querini³⁸.

我々は 1432 年のノルウェー沖でのヴェネツィア船員の同じ漂流についての二つのテキストを持っている。最初のは船長ピエトロ・ケリーニに負った。

Si sparsemu in terra i soldi chi li *eranu duvuti*³⁹.

彼らが支払うべき金が地面にまかれてしまった。

まとめ

以上の状況をまとめるならば、複合時制のコルシカ語における助動詞は、フランス語よりはイタリア語の助動詞の使用区分に近似していると結論することができる。しかし、いくつかのケースにおいては、フランス語に近似する場合もあれば、仏伊語とは異なる独自のケースもまれに存在することが分かる。そうしたコルシカ語の独自性については、今後、音声などに多大な影響を及ぼしているイベリア半島のロマンス諸語（カスティージャ語、カタルーニャ語、ポルトガル語等）などとも比較検証することが必要であり、真に「独自」とまではまだ言い難い。この作業は、コルシカ語のロマンス諸語における位置づけにおいても重要であり、今後の比較検討が望まれるところである。

ALBERTINI, Jean(1968), *Précis de grammaire corse*, Editions du C.E.R.C.

CASTA, Santu(2003), *Le syntaxe corse*, CRDP di Corsica.

CULIOLI, Antoine-Louis, et al., (2010), *U Minò, petit dictionnaire français-corse corsu-francese*, DCL éditions.

FRASSATI, Michele(1998), *Stonde cù i Vincenti*, Le Signet.

FUSINA, Jacques(1996), *E sette chjappelle*, Albiana.

GAGGIONI, Ghjaseppiu(2012), *La langue corse en 23 lettres*, Albiana.

平嶋一美(2004)「フランス語の動詞時制形学習における学習文法の問題(1) —過去時制形の言語学的記述—」『関西大学視聴覚教育』第27号, pp.23-33。

ROMANI, Gilbert(2006), *Grammaire corse pour le college et l'école*, DCL Editions.

U MUNTESE(1984), *Dizziunariu corsu francese*, tomes 1-4. Albiana.

³⁷ 『伊和中辞典』前掲頁。

³⁸ No country, u bloggu di Marcu Biancarelli, « U navifraghju di a Querina », 11 décembre 2012, (<http://marcubiancarelli.blogspot.jp/2012/12/u-navifraghju-di-querina.html>)

³⁹ U Situ di A Scola Corsa di Marseglia, « Vintiessima Lezzione », 18 dicembre 2010, (<http://www.bloggez.fr/tarraza27/rubrique-8308.htm>)